

第1回埼玉県競輪事業検討委員会 概要

■日 時 令和3年6月11日（金） 14：40～16：25

■場 所 西武園競輪場 ロイヤルルーム

■出席者 岩崎康夫委員（委員長）、小川千恵子委員（副委員長）、小原千代委員
小沼航士委員、竹内春香委員、東角井真臣委員

■議事概要

1 あいさつ

- ・小野寺総務部長からあいさつ（Zoomにて）

2 委員紹介

- ・渡邊県営競技事務所長から各委員を紹介

3 委員長選出等

（1）委員長の選出

- ・委員長に岩崎康夫委員を選出。副委員長に小川千恵子委員を選出

（2）会議の公開について

- ・会議の公開について、今回の議題には非公開とすべき情報は含まれていないため、原則どおり公開することに決定

（3）埼玉県競輪事業検討委員会の概要について

- ・資料1に基づいて事務局から説明

4 議事

（1）埼玉県営競輪の現状について

①競輪事業の現状について

- ・資料2に基づいて、公益社団法人 全国競輪施行者協議会 大久保 修次 事務局次長兼企画部長から説明

【委員からの主な意見等】

（小沼委員）

- ・競輪業界が向かうべき方向性については、どのような会議で決定されるのか。

→全国競輪施行者協議会とJKA、選手会の3団体のトップが出席する競輪最高会議にて決定される。

（小原委員）

- ・埼玉県の売上が大きくても収支が低くなる理由は何か。

→埼玉県は大宮双輪場と西武園競輪場の2場分の売上があるので大きくなる。しかし、西

武園競輪場は西武鉄道が所有している場を借りている。よって自前で競輪場を持っている施行者と違い、場の使用料が必要である。

(竹内委員)

・GⅢの売上が下がっている理由は。

→GⅢでは各競輪場が車券の場外発売を行うことが慣例であるが、各場の入場者数が減っており、その分各場で発売される車券の売上が下がっていることが大きい。

(岩崎委員長)

・収益改善を図る上で、全国団体として向かうべき方向はどう考えているか。

→コロナの影響もありインターネット発売の売上が伸びている。今後も売上はインターネット発売に頼ることになるため、この部分に力を入れる。特に公式のCTCというサイトは施行者の利用料も安いので、こちらの売上を伸ばすよう努力したい。またスポーツの一面としての魅力もあるため、競輪場に来場してもらえるような工夫をしたい。

②埼玉県営競輪の現状について

資料3に基づいて事務局から説明

【委員からの主な意見等】

(小川委員)

・直営と包括委託ではどちらの収益が高いのか。

→各競輪場の状況によるので、一概には申し上げられないが、直営であっても実際は業務を委託しているため、各業務の委託業者に利鞘が発生する。一般論として、包括委託であればその分の利鞘が圧縮できると考えている。

(小沼委員)

・各課題の検討の前に何のための検討なのか、大宮双輪場がどうあるべきなのかを検討した方が良い。

(岩崎委員長)

・収益先取型方式は事業収入を増やした時に受託業者のインセンティブになるのか。また委託料が減った場合に経費削減によりサービスの低下を招くことはないか。

→基本的には、事業収入が増えれば委託料が増えるようになっており、インセンティブがあると言える。ただし、売上に応じて階段状に県の収益率を設定しているため、売上が少し上がると委託料が減るという場面が受託事業者にあるかもしれない。今後の研究課題である。

サービスの低下については、事業報告書によってサービス内容を確認している。また、日頃から業務で関わることも多く、サービスの低下があれば、その都度話をできる関係にある。

(2) 今後の進め方について

資料4に基づいて事務局から説明

【委員からの主な意見等】

特になし

次回開催は令和3年7月13日（火） 大宮双輪場にて開催

以上